

授業科目名	開講 年次	開講 学期	講義 種類	単位数	担当教員名
幼児理解・教育相談	2	前期	講義	2	大迫 千佳子
<p>○授業の到達目標及びテーマ</p> <p>幼児のありのままの姿から幼児の内面を理解し、その育ちを見出すことは保育の在り方の一歩であり保育専門性の中核とする。授業内で、幼児理解の基本に基づいて援助の工夫と対応を学び考察する。現代の子育て事情を踏まえながら子どもと家庭に関する課題について考えまた、保育の現場で行われる教育相談について、相談者に寄り添い問題解決を通して子育てまたは親育ての支援を行うためのマネジメント及びカウンセリングの基本と論理を学び様々な事例や検討をロールプレイング体験で、実践的な力の習得を目指す。</p>					
<p>○授業の概要</p> <p>幼児教育に焦点を当て幼児の理解の方法と実践における活用など保護者の思いを受けとめることの重要性sについて事例を通して学生相互で学び、幼児の育ちの相談の在り方を担当教諭の経験と体験を中心に授業を行う。</p>					
<p>○授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（幼児理解と教育相談の基本的視点）</p> <p>第2回：保育における子どもの理解の意義（事例ロールプレイ）</p> <p>第3回：子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり（子どもとうまく関わるため）</p> <p>第4回：子どもを理解する視点（生活の中の学びに気付き・遊びの内容や環境を考える）</p> <p>第5回：保育の人的環境としての保育者と子どもの発達（保育の場面における関わり方を考える）</p> <p>第6回：葛藤やつまずきを乗り越えるための環境と関わり</p> <p>第7回：保育の環境の理解と構成</p> <p>第8回：子どもを理解する方法（観察記録の方法を学ぶ）</p> <p>第9回：保育者間の連携（対話が拓く保育者の専門性）</p> <p>第10回：保護者との情報の共有（連絡帳の記録方法）</p> <p>第11回：子ども理解に基づく発達援助（発達に応じた援助と関わりを考える）</p> <p>第12回：特別な配慮を要する子どもの理解と援助（発達検査と応用分析に基づく援助）</p> <p>第13回：発達に問題のある子どもの保護者の理解（寄り添い理解から発展性のある支援）</p> <p>第14回：就学に向けたアセスメントを学ぶ（要領の記録と小学校との連携）</p> <p>第15回：幼児理解と教育相談の学び成果</p>					
<p>○テキスト</p> <p>「子どもの理解と援助」清水益治・無藤 隆 編集（北大路書房）</p>					
<p>○参考書・参考資料等</p> <p>「子育て支援と保護者の役わり」柏女霊峰氏 「子どもの幼児理解と評価」高野良子氏</p> <p>「気になる子の保育サポート事例集 酒井幸子氏・中野圭子氏 「ていねいな子育てと保育」近藤直子氏</p>					
<p>○学生に対する評価</p> <p>学習授業への関心・態度（20%） 課題解決への取り組み（30%） 定期試験（50%）</p>					